

令和2年度 冬号

図書館だより 幼児向けブックリスト

相生市立図書館

☎ 0791-23-5151



クリスマスがやってくる



『ゆうびんやのくまさん』 フィービ・ウォージントン・作・絵//

セルビ・ウォージントン・作・絵//まさきりこ・訳//福音館書店//P

あるところに、ゆうびんやのくまさんがいました。くまさんは朝早く起きて、手紙や小包の入った袋を駅に取りに行きます。袋を郵便局まで運ぶと、手紙や小包にはんこを押して、配達に出かけます。それから郵便ポストの手紙を回収して、また郵便局に戻ります。クリスマスイブの朝、くまさんはいつもと同じように仕事に出かけます。くまさんがほかの仕事で活躍する姿を描いたシリーズがあります。

『くろうまブランキー』 伊東三郎・再話//堀内誠一・画//福音館書店//P

黒馬のブランキーは、いじわるな主人のもとで働いていました。やがてブランキーは年を取って、以前のように仕事ができなくなります。ある日、ブランキーは仕事で失敗し、道に倒れこんで動けなくなってしまいます。その日はちょうどクリスマスで…。

『つきよのぼうけん』 エインゲルダ・アーディゾーニ・文//

エドワード・アーディゾーニ・絵//なかがわちひろ・訳//徳間書店//P-ア

ぬいぐるみのくまのダンディ、人形のケイト、ちいさなぬいぐるみのくまのテディは、子どもたちが大きくなり、長い間戸棚にしまわれたままでした。そしてクリスマスが近づいたある日、とうとうゴミ箱に捨てられてしまいます。何とか逃げ出した三人は、町はずれであるものを見つけます。

『はろるどのクリスマス』 クロケット・ジョンソン・作//小宮由・訳//文化出版局//P-ジ

クリスマスイブ、はろるどはもみの木を見つけに北の森に出かけます。しかし、吹雪になったり、北極にたどりついたりして、なかなか見つけることができません。はたして、サンタクロースが来る前に、もみの木を家に持ち帰ることができるでしょうか。はろるどが主人公の絵本はほかにもあります。

『ぐりとぐらのおきゃくさま』 中川李枝子・作//山脇百合子・絵//福音館書店//P-ナ

雪合戦をしていたのねずみのぐりとぐらは、雪の上に落とし穴を見つけました。よく見てみるとそれは長ぐつので、その足あととはぐりとぐらの家のドアの前まで続いています。2匹が家の中に入ると、大きな長ぐつ、真っ赤なオーバーとぼうし、真っ白なえりまき、てぶくろ、くつした、それから大きな白い袋が置いてありました。



2021 年は丑年！うしが出てくる絵本



『くいしんぼうのはなこさん』

いしいももこ・文//なかたにちよこ・絵//福音館書店//P-イ
あるお百姓のところに、はなこという名の子牛がいました。はなこはわがままを言って、ごちそうばかり食べて育ったので、大きく成長しました。春になり、山の牧場に連れて行かれると、そこにはたくさんの子牛たちが集まっていました。子牛たちは強さを競い合い、牧場の女王を決めました。そしてはなこは一番になり、わがままに暮らしていましたが…。

『モーモーまきばのおきやくさま』

マリー=ホール=エッツ・文・絵//やまのうちきよこ・訳//偕成社//P-エ
春、牧場で牛が草を食べていました。草がとてもおいしかったので、牛はだれかに食べさせてあげたくなりました。それを聞いたカケスが動物たちを呼びに行き、ウマ、ヤギ、ブタ、子ヒツジ、イヌ、ネコ、ガチョウ、めんどり、おんどり、ネズミがやってきますが…。

『はなのすきなうし』 マンロー・リーフ・おはなし//ロバート・ローソン・絵//

光吉夏弥・訳//岩波書店//P-リ
むかし、スペインにフェルジナンドという牛がいました。フェルジナンドは他の牛たちとは違って、木の下でひとりしずかに花の匂いをかぐのが好きな牛でした。ある日、5人の男たちが闘牛に出す牛を探しにやってきます。全く興味のないフェルジナンドでしたが…。



ゆきあそびだいすき



『ゆきのひ』 エズラ=ジャック=キーツ・文・絵//きじまはじめ・訳//偕成社//P-キ

ある朝、ピーターが目を覚ますと、外には雪が積もっていました。ピーターは外に出て、雪に自分の足型をつけたり、雪だるまを作ったり、雪山をすべりおたりして遊びました。明日も遊ぼうと思って、雪だんごをポケットに入れて家に帰りますが…。単純なおはなしが子どもたちを雪の世界に引き込み、ピーターの動きや表情のすべてから、雪の中で遊ぶ楽しさが伝わってきます。

★相生市立図書館には、冬の自然を描いた写真絵本もあります。

『しもばしら』 細島雅代・写真//伊地知英信・文//岩崎書店//45

『つらら』 細島雅代・写真//伊地知英信・文//ポプラ社//45

『ふゆとみずのまほうこおり』 片平孝・写真・文//ポプラ社//45

『おかしなゆきふしぎなこおり』 片平孝・写真・文//ポプラ社//P-カ



ほかにもあるよ！おすすめの本



『かさじぞう』 瀬田貞二・再話//赤羽末吉・画//福音館書店//P

あるところに、貧乏なおじいさんとおばあさんがいました。大晦日を迎え、正月の餅を買うために、編み笠を売りに行きましたが、まったく売れませんでした。家に帰る道中、雪をかぶって立っている六地藏を見て、おじいさんは売るための編み笠と自分の笠をかぶせます。

有名な昔話ですが、この本は淡い墨で描かれた絵がおはなしにぴったりと合っています。

『てぶくろ ウクライナ民話』 エウゲーニー・M・ラチョフ・絵//

うちだりさこ・訳//福音館書店//P

おじいさんが森のなかでてぶくろを片方落としました。そこへネズミがやってきて、てぶくろのなかに住みつきます。そのあともカエル、ウサギ、キツネ、オオカミ、イノシシ、クマが次々とやってきて、てぶくろのなかにもぐりこみます。

動物たちの会話がリズムカルで、くりかえしの楽しい一冊です。

『ゆきむすめ』 内田莉沙子・再話//佐藤忠良・画//福音館書店//P

あるところに、おじいさんとおばあさんが住んでいました。二人には子どもがおらず、そのことをとても寂しく思っていました。ある冬のこと、子どもたちが雪遊びをしているのを見て、二人も外に出て女の子の像を作りました。すると、突然その女の子が動き出しました。二人は女の子をととてもかわいがっていましたが、やがて春が来て、そして夏が来ると…。

『おにたのぼうし』 あまんきみこ・文//いわさきちひろ・絵//ポプラ社//P-A

おにたは、まことくんの家の物置小屋に住む黒鬼の子どもです。節分の夜、豆まきをするまことくんから逃げていると、ある一軒の家を見つけました。その家には、病気で寝ているお母さんと女の子がいて…。

『おばあさんのすぷーん』 神沢利子・作//富山妙子・絵//福音館書店//P-C

おばあさんは古いスプーンをととても大切に使っていました。ある日、おばあさんはスプーンを落としてしまい、カラスがそれを持って行ってしまいます。時がたち、カラスが隠していたスプーンが、強い風で木の下に落ちてきました。3匹のネズミたちがそれを見つけて…。

歌うようなリズム感のある文章が魅力的なので、ぜひ読み聞かせてみてください。

『たろのえりまき』 きたむらえり・作・絵//福音館書店//P-K

こぐまのたろは、お母さんに赤いえりまきを編んでもらいました。さっそくえりまきを首に巻き、うさぎのなーちゃんと裏山でそりすべりをして遊んでいました。すると、強い風が吹き、えりまきが飛ばされてしまいます。急いで追いかけますが、途中で見えなくなって…。

同じ主人公のシリーズがあります。

『ゆきのひのゆうびんやさん』 こいでたん・文//こいでやすこ・絵//福音館書店//P-コ
冬、3匹のねずみが家の中で遊んでいると、ゆうびんうさぎが小包を届けにやってきました。ゆうびんうさぎが風邪をひいてふらふらしているのを見た3匹は、代わりに配達に行くことにしました。配達をしていると、だんだんと雪と風が強くなってきて…。ほかの季節を描いたシリーズがあります。

『きらきら』 谷川俊太郎・文//吉田六郎・写真//アリス館//P-タ
雪の結晶を見たことはありますか。この本は、雪の結晶の写真に谷川俊太郎さんの素朴な言葉が添えられた一冊です。青色の背景に透き通る雪の結晶ひとつひとつが、とても美しいです。雪の結晶は、基本的に六角形ですが、その形は無限に変化し、全く同じものはないそうです。一頁一頁ゆっくりと楽しんでください。

『もうすぐおしょうがつ』 西村繁男・作//福音館書店//P-ニ
お正月休みになり、ひろくんとゆうちゃんは、両親といっしょに祖父母の家に向かいます。窓ふきや障子の張り替えなどの大掃除、親戚が集まって行う餅つき、たくさんの人でにぎわう市場での買い出し、真夜中の初詣など、家族みんなで新しい年を迎える様子が描かれています。

『はたらきもののじょせつしゃけいていー』
バージニア・リー・バートン・文・絵//いしいももこ・訳//福音館書店//P-バ
けいていーは、キャタピラのついた赤いトラクターで、夏はブルドーザー、冬は除雪車として働いていました。ある年、たくさんの雪が降り、町が雪にすっぽりと覆われました。だれも身動きが取れなくなってしまったその時、けいていーだけが動いていて…。

『しんせつなともだち』 方軼羣・作//村山知義・画//君島久子・訳//福音館書店//P-フ
冬、食べるものがなくなってしまったこうさぎは、食べものをさがしに出かけます。二つのかぶを見つけたこうさぎは、一つは自分で食べ、もう一つはろばにあげることにしました。家をたずねたこうさぎでしたが、ろばが出かけていなかったので、かぶを置いて帰ります。
単純なくりかえしなので、ごく幼い子どもでも楽しめるおはなしです。

『くまのコールテンくん』 ドン=フリーマン・作//まつおかきょうこ・訳//偕成社//P-フ
コールテンくんは、デパートのおもちゃ売り場にいるくまのぬいぐるみです。ある日、コールテンくんの前に女の子がやってきましたが、つりズボンのボタンが取れていて、買ってもらえませんでした。その夜、コールテンくんはボタンを探しに出かけます。

『こよみともだち』 わたりむつこ・作//ましませつこ・絵//福音館書店//P-ワ
暦の家が12軒ありました。1月さんから12月さんまで、それぞれの家にみんなひとりで暮らしていました。ある年の初め、1月さんは、正月料理をそろえてお祝いしようとしていました。しかし、ひとりではつまらないと思い、2月さんの家をたずねます。最後のページは仕掛け絵本になっています。